

視 察 報 告 書

報告者氏名：ふじそのあき

委員会名：環境教育常任委員会

期 間：令和5年 10月18日（水）～10月20日（金）

視察都市等及び視察項目：

厚木市：教育情報ネットワーク用コロケーションデータセンターについて

新見市：インクルーシブ教育について

福岡市：夜間ごみ収集について

所 感 等：

厚木市：教育情報ネットワーク用コロケーションデータセンターについて

厚木市では平成30年に教育情報システムを再構築するため新規データセンターを5年契約で外部委託した。外部のデータセンターに全ての校務情報を集約し、システムダウンなどの事故なく管理している。契約終了となる令和6年度には将来的なクラウド移行を見据えて次期募集を行う。

教育現場では、システムの活用により教材の幅が広がり、教員の意欲向上のきっかけになっているが、新しいシステムに対しての負担増もある。

横須賀市でもデジタル技術の活用が進んでおり、児童・生徒の特性に沿う教材や環境の整備や、教員の専門性が発揮できるツールの活用が期待される。

デジタル技術が教職員の負担軽減につながるかは一概に言えず、かえって負担が増す現場があることに留意しなければならない。

電磁波過敏症やディスプレイを長時間見ることによる目の疲労など、新たな健康被害を防ぐ方策が求められる。

新見市：インクルーシブ教育について

新見市は令和元年に思誠小学校を建て替えた際に特別支援推進センターを創立し、今年で5年目となる。児童数が減っている中で特別支援学級の児童は増えており、特別支援学級と特別支援教室、通常級を併設し、交流や通級指導、学習のサポートに取り組んでいる。市内学校のほか、保育所・認定こども園支援のセンター的機能を持っている。

横須賀市でも、インクルーシブ教育のためのセンター的な機能の充実が必要だと感じた。

不登校児童・生徒への支援や通級指導の充実など、児童・生徒が学びやすい環境づくりが求められている。また、就労や就学の相談、福祉や医療との連携の強化も求められている。

福岡市：夜間ごみ収集について

福岡市は昭和30年代から家庭ごみの夜間・戸別収集を行っている。全国でもめずらしいこの制度の背景には、もともとごみを資源として利用していた農業者などが協会を設立し、現在でもごみ収集事業者からなる協会が回収車の運行を担っていることがある。

夜間収集のメリットとして、都市美観やカラス被害の抑制、交通渋滞の原因にならないということが挙げられる。戸別収集は家の外にごみを置いておけばよく、集積場の管理の負担もなくなる。

ただ福岡市はほとんどが平地で、市民の多くは等しく夜間戸別収集のサービスが受けられる。一方横須賀市は、町内のほとんどが階段を使い行き来する地域もあり、地形にあった対策が必要である。

横須賀市はそのような地域での町内の助け合いや高齢者等へのごみ出し支援収集が欠かせないものとなっている。夜間に活動する野生動物もいるので、カラス対策については時間をずらすことだけではないさらなる研究が必要である。また、集積場の散らかりや不法投棄は市民の負担になっているので、ごみ回収方法の研究は引き続き必要である。